

令和5年度 学校評価書

学校名:和歌山市立和歌山高等学校定時制 学校長名:竹内伸之

目指す生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会の変化に対応できる思考力・判断力・表現力を身につけた生徒の育成</li> <li>○平和を愛し、人権やルールを大切に人間愛に満ちた生徒の育成</li> <li>○運動能力を高め、健康で安全な生活を営む生徒の育成</li> </ul>
--------	--

本年度の重点目標  ○開かれた学校 ○豊かな心の醸成 ○確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、地域との連携を図るため、教育活動を広報する。</li> <li>・生徒、保護者、地域の声を反映させ、特色ある教育活動を展開する。</li> <li>・全教育活動、教育場面を通して、自他の「命」を最優先して尊重する態度を育てる。</li> <li>・基本的生活習慣を確立させ、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。</li> <li>・基礎・基本を定着させ、情報化社会に積極的に対応できる能力を養う。</li> <li>・勤労を重んずる精神を養うとともに、個人の適性に応じた進路指導を推進する。</li> </ul>
--	---

達成度	A	十分に達成した(80%以上)
	B	概ね達成した(60%以上)
	C	あまり十分でない(40%以上)
	D	不十分である(40%未満)

現状と課題	課題解決の取組	自己評価	改善充実策	達成度	次年度への課題と改善策
<b>安全教育・安全管理</b> 夕暮れ時の事故が起こりやすい時間帯に登校する生徒たちの安全教育として、登下校時の安全意識の向上・命の尊さについて生徒への声かけ等で常に意識するよう指導している。また、東南海地震等に備えた防災意識を向上させ、即時の判断力の向上にも取り組んでいる。	生徒指導部と協力し、交通安全講話等の特設LHRを実施し、全校生徒に対して講話してもらった。 また、常設LHRの時間を利用し、地震時の避難訓練とその後の津波時の避難訓練を同時に行い、避難場所の違いを生徒に指示誘導し、把握させる。併せて個人の判断の大切さについて理解を促す。	交通安全講話の実施はできなかったが、各種行事及び式典を安心かつ安全に執り行うことができた。 生徒一人ひとりが、学校生活を安心・安全に送ることができるよう各分掌や管理職と情報共有を行い、学校全体で防災教育(避難訓練)に取り組むことができた。	生徒たちが心豊かな学校生活を送れるよう、学校行事等を創意工夫し、命の尊さ、自尊感情の向上、他者を思いやり行動する共助の心を育むことができるよう取り組む。 防災教育については、近隣の消防署などの指導助言を受けながら指導し、東南海・南海地震に備え、避難訓練などにも色々な工夫を加味していく。	B	地域の豊かな人的資源を活かし、幅広い見識が習得できるよう学校行事等において創意工夫する。 また、生徒たちが安心・安全な学校生活を送るために、危機管理、危機意識の向上や防災教育の充実を図り、継続して取り組む。 そして、定時制教育が地域に理解されるよう、ホームページ等を活用して、情報発信を行っていく。
<b>生活指導</b> 他人との接し方に課題を抱える生徒が多く、自分の感情や考えをうまく表現できなかったり、悩みを抱え込んだり、問題行動などが見受けられる。教員全体で生徒とのコミュニケーションを密にし、細やかな支援・指導が必要である。	生徒が抱える課題に対し、教職員、保護者、SC、外部機関など一体となり、連携強化を図る事が重要である。チームとして多角的な視点での問題解決に当たる。チーム全体で、生徒自身のコミュニケーション能力の向上へとつながるよう支援を行う。	基本的生活習慣の定着を目指し、生徒指導部を中心に活動することができた。特に不登校や人間関係に悩む生徒に対し、きめ細かい対応をすることができた。個々の生徒に対し時間をかけてしっかりと向き合い、コミュニケーションを十分にとりつつ、生徒自身の個性を、時間をかけて理解していくことが必要だと考えられる。	課題解決の取り組みにもあるように、教職員、保護者、SC、外部機関など、さらなる連携強化が求められる。一人の生徒を点で支えるのではなく、面で捉え、横断的な教育支援や生徒理解が急務である。また、学校内の連携強化と同時に、他校との情報共有の重要性が挙げられ、近隣高校との情報交換等も重要である。その場合、特に高校だけでなく、中学校との連絡体制の確立も必要があると考えられる。	B	現在、定時制に在籍する生徒の一番の課題は、コミュニケーション能力の育成にあると考えられる。授業はもとより、様々な学校生活の場面で、人間形成の育成に重点を置くことが大切である。生徒個人の学びに向かう力を刺激し、自らの意思で学習に向き合えるような人間育成を行うことを目標とする。
<b>学習指導</b> 高校入学まで不登校であったり、学校を休みがちであった生徒が依然として多く、適切な対応が必要である。また、入学後、学習に取り組む姿勢が身に付いていない生徒や、高校入学時での基礎学力が身につけていない生徒も多いため、適切に対応し、生徒にとってわかりやすく理解が深まる授業の実現を目指す。	学び直しの観点から基礎学力の定着を目指して、反復練習等の工夫した授業展開を行っている。また、興味・関心を喚起するよう、適切な補助教材の作成等の工夫をしている。欠課時数が増加傾向にある生徒には、随時指導を行うとともに家庭と連絡を密にし、きめ細かな指導を心がけている。	わかりやすく、興味や関心のわく授業になるよう工夫し、各生徒の特性に合わせた授業を展開した。本校入学前に長期欠席していた生徒の学習意欲も引き出し、その多くが前向きに登校している。 また、夏季休業中に国語、数学、理科、社会、英語、商業の教科で補習講座を開講する等、学習意欲の高い生徒にも対応した措置を実施し、能力の向上を図った。	今後も、よりいっそう基礎学力の定着に努め、補助教材の作成や反復練習に重点を置いた授業を実施し、興味・関心をもって学習できるように指導していく。学力差や多様な個性、様々な環境のもとで就学している生徒一人一人に対応できる学習環境に整える必要がある。 また、引き続き、生徒の出席状況、授業態度、生活態度及びその変化等の情報共有を教員間で十分行う必要がある。	A	多様な個性を持つ生徒個々に対応した授業と指導を継続していく必要がある。できるだけ多くの生徒に興味・関心を持たせ、積極的に学習活動に取り組ませるような授業を実施し、生徒のコミュニケーション能力を育成できるような工夫をする。 また、学習意欲の高い生徒や進路希望が明確な生徒に対応した学習環境を今後も整える。
<b>進路指導</b> 年度当初の調査では、卒業予定者8名のうち、就職希望者は5名(うち学校斡旋を希望しているのは2名)、進路未定が3名となっている。進学希望者が皆無であることは課題である。経済的な負担への懸念、学歴が自己実現や収入に反映されるという期待感が乏しいことが背景にあると考えられる。	進路未定者をできるだけ減らし、進学も含めて早期の進路決定を促すために、昨年度から取り組んでいるキャリア・パスポートを活用する。パスポートへの記入に当たっては、外部機関から提供されたチャンネルにスマホ等でアクセスし、進路意識醸成に資するようにしたい。 また、肉筆で文章を作成するのが苦手な生徒が多いので、PCを活用する授業との連携も想定している。	1,2学期とも進路LHRにおいてキャリアパスポートを用いた。 本来ならば学校行事や自らの学びを振り返って記入すべきではあるが、行事参加生徒の減少や出席状況が厳しい生徒がいることに鑑み、文部科学省のウェブページや和歌山県が実施する合同企業説明会の動画配信を活用した。 以上により、講師派遣ではないものの、外部機関との連携は一定程度実現できた。	キャリアパスポートへの記入を見ると、ある程度まとまった文章を書いている生徒は一部に限られている。単語だけを殴り書きしたり、無記入の生徒もいる。 時間的余裕があり、PCを用いることで負担が軽減されるはずの卒業文集作成でも思い悩む生徒がいる現状である。 こういった事柄を踏まえると、ICTの活用を継続しつつ、キャリアパスポートの書式を抜本的に見直す必要がある。	B	本校に限らずキャリアパスポートは自由記述が基本になっているが、記述状況を改善するにはこれを抜本的に見直し、例文選択式や穴埋め式に変更することが必要と考える。 キャリアパスポート本来の狙いを損ねずにこういったことが可能なのか、慎重に検討し効果的な活用につなげていく。

学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間、自転車で移動する時は必ず灯火して運転するよう御指導ください。</li> <li>・近いうちに起こると言われてる東南海地震を見据え、今後も引き続き防災教育に取り組み、一人ひとりの防災意識の向上に努めてください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒達とコミュニケーションがとれていることがうかがえました。</li> <li>・生徒一人ひとりの個性を理解したコミュニケーションの構築を今後も引き続き行ってください。不登校経験者が毎日登校できる環境づくりを今後も継続して行ってください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定試験三冠表彰を目標にし、達成感、充実感を引き続き生徒に味わわせて欲しい。ICTの活用、個々に応じた学習教材の工夫等において、今後も引き続き生徒の学習意欲の向上に取り組んでください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポートの取り組みや外部機関との連携をより充実させ、一人ひとりの進路目標を具体化するため、今後も引き続き生徒一人ひとりに寄り添った進路指導を継続して欲しい。</li> <li>・定時制生徒には個々への対応が前提になるかもしれないが、特に進路の目的・希望を持たせる学習指導を徹底する方が良いのではないかと。</li> </ul>